

測量

五

1032

明治
二十
九年

副官



參事官

發付

三月廿六日

明治二十九年三月廿四日起案

大臣

次官



軍務局長

代



局員



案

貴省下測量、自便更張、官省中七八〇部

官房第七八〇號

海軍

件

1033

、四洲丸、付し地名、新嘉坡、西ハ八
ヲ以テ當省大良家照會ノ趣ヲ遂回地ハ
第何甲、南東市約四里（邦里）ニシテ香深木
井出版ニナカシ、一國宗谷ト名ケル陸國ニテ
判明致美、此級亦官ヲ以回致美也

明治三十九年三月廿六日

決官

北海道廳長官宛

追テ同地ハ海軍海回中、北海道北見國海
馬場ノ対岸ニ相當ナル為ニ此等甲海也

本道北見沿岸測量ノ為メ吏員
派遣ニ付測量事業ニ關シ便宜
ヲ與ヘシムル様取計ヲヘキ義
本年三月七日官房第七八。號
ノ四月以テ御通達相成尚水路
部長ヨリモ同一ノ意味ヲ以テ
照會ノ次第有之候處大後水路
中監外五名ノ測量區域ハ雄武
ヨリ枝前附近ニ至ルト有之候
ニ枝前ト稱スル地ハ地圖等ニ
テ不明ニ付或ハ枝幸ノ誤
ニ無之ヤト被認候ヘ共不明

二月關係地方へ諭達等ニ差支
候條折返何分ノ御回答相成度
此段及照會候也

明治三十九年三月二十日

北海道廳長官男爵國田安賢



海軍大臣齋藤實殿

副官



参事官

發付

三月
七日

明治九年三月六日起案

大臣

次官



軍務局長



局長



案

海軍中佐 上野 亮

官房第七八〇號三

海軍

外五名

右本年四月中旬より七尾北港測量ノ爲
出張セシメタル其管下強沿岸地方官
街其他ノシテ測量事業ニ関シ便宜ヲ求
ヘシタル條取計ヲ可シ

明治三十九年三月七日 大臣

石川縣知事宛

官房第七八〇號

三

海軍水師中島 偵察 寛

外五名

右本年四月上旬より鹿児島縣徳ノ島、
沖永良部島ニ出張シ附近ノ沖縄諸島

島北郡及島鴻ニ至ル海面測量ノ為出張セシ
 秀信其管下該沿岸地方官衙其他ヲシテ測
 量事業ニ關シ便宜ヲ興ヘシムル様取汁ノ可シ
 明治三十九年三月七日 大臣
 廣見島縣知事宛
 沖繩縣知事宛

官房第七八〇號ノ旨

此見國常呂
 日田縣知事宛

海軍省地方局 高野順 廉

外七名

此見國常呂
 日田縣知事宛

海軍省地方局 大塚五郎

外五名

本年四月下旬ノ為頭書ノ區域測量

ノお出張セシメ給有界管下領沿岸地方官
衛其他ツレテ測量事業ニ関シ便宜ヲ與ヘシム
ル様取計ヲ可シ

明治三十四年三月 七日 大臣

北海道廳長官宛

官廳第七八〇號

相ノ案

水第一八八條及五條ノニ五條ノニ上甲ノ件ハ
關係有地方官宛ノ訓令ニ基キ、東京府知事ハ
ハシ

明治三十四年三月 七日 大臣

水部部長官宛

(新橋北村録)

水第一八八號

七尾湾測量施行ニ付石川県知事へ
御訓令相成度儀上申

海軍中佐上野 亮

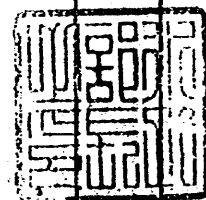
外五名

右ハ今般當部ニ於テ七尾北湾測量施行
ノ爲メ本年四月中旬ヨリ出張セシムヘク矣ニ付同
沿岸各地ニ於テ該測量員ニ對シ出来得
ル限り便宜ヲ與ヘレ度矣余此旨該地
附近ニ關係ノ各地方廳及警察署等
ヘ夫々諭達有之様石川県知事へ
御訓令相成度此般上申候也

明治三十九年三月二日

水路部長松本 和

海軍大臣齋藤 實 殿



水第一八八號三

南西諸島測量施行ニ付鹿兒島及沖繩
兩縣知事ニ御訓令相成度儀上申

海軍水路中監值賀 寛

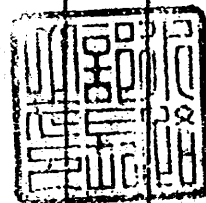
外立名

右ハ本年當部ニ於テ鹿兒島縣德島沖永良部島及此論島附近ヨリ沖繩及本島北部及鳥島ニ至ル海面測量ノ爲メ四月上旬ヨリ出張セシムルニ付該各所管區域内ニ於テ同測量員ニ對シ出来得ル限リ便宜ヲ興ヘラレタリ余此旨同地附近関係各地方廳及敬言寮等ニ等々夫々諭達有

之樣鹿兒島及沖繩兩縣知事へ御訓
令相成度此段上申候也

明治三十九年三月二日

水路部長松本和



海軍大臣齋藤實殿

水第一八八號ノ三

北海道測量施行ニ付北海道廳長官、
御訓令相成度儀上申

北見國常呂ヨリ
同國雄武ニ至ル

海軍水路大監高野瀨麿

外 七名

北見國雄武ヨリ
同國枝前附近ニ至ル

海軍水路中監大後 五郎

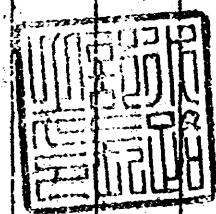
外 五名

右ハ本年當部ニ於テ北海道北見海岸頭
書ノ區域測量ノ爲メ四月下旬ヨリ出張セ
シムヘシ矣ニ付同沿岸各地ニ於テ該測量員
ニ對シ出未得ル限リ便宜ヲ與ヘラレタリ
糸此旨該地附近ニ關係ノ各地方廳及

警察署四者筆寸ハ夫々諭達有之様同
道廳長官ハ御訓令相成度此段上
申矣也

明治三十九年二月二日

水路部長 松平 和



海軍大臣 齋藤 實 殿

水路部長 代理

副官 精務 參事官

發付 六月一日 13

三十五年五月五日 起案

大臣

次官

軍務局長

局員

閣

閣

案

本年三月七日有以七八分四厘水路測量

第 二〇二五 號 二

海軍

欠、便書ヲ曉ス件、由前大府訓令
中北見國枝前ナル地名、癸シ五月十
六日六師才四八九師附再應出照寫
之、教了、乘右枝前ト稱セシハ、地
部製二十万分一地圖ヲ據リ、其地
要ニ、枝前内附近ヲ指センヲト、乘
知存之方付段及回、是也

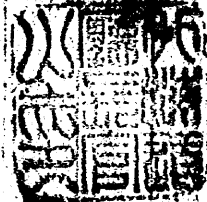
明治三十九年二月一日 功存

北海道廳長官宛

區別紙地圖一案、乃返、此也

手知りて、
 ルトキハ、
 お考ふる、
 多々或ハ、
 之より、
 枝前、
 子所、
 海之、
 今三十九日

北海道長官
 北田



海軍次官加藤友三郎殿

明治

副官



参事官

發付

六月廿日

明治九年八月廿九日起案

大臣

次官



軍務局長



局員



参

海軍技手 松原規足

官房第二四二四號二

海軍

外書名

右本年八月以後釧路國釧路附近及十勝
國釧路附近^村、於今ノ測量未了區域測
量ノ為談海岸附近及山頂等、標旗其他
測量標ヲ建設シ測量ニ從事セシメテ其管
下該地方官衙其他ヲレテ右測量事業ニ關
シ便宜ヲ與ヘシタル様取計ヲヘシ

明治三十九年六月廿六日
大臣

北海道産小麦

官房第二四二號三

此亦五十六條上甲、件、此海道諸長官、
此訓大五、此者、心得、

明治三十九年五月廿六日

水野部長宛

大臣

海

軍

(明治三十九年)

1053

水第五二六號

北海道釧路及十勝沿岸測量ニ付
同總長官、御訓令相成度件上申

海軍技手 松原規足

外 港 名

右ハ本年八月中旬以後釧路國釧路附近ヨリ
十勝國一壱舟附近ニ至ル間ニ於ケル去ル明治
三十七年未了區域ヲ測量セシメ奏ニ付海岸
附近及山頂等ニ標旗其他ノ測量標ヲ
建設シ該事業ヲ施行スヘク矣條沿岸
各地ニ於テ出来得ル限リノ便宜ヲ同出張
員ニ與ヘ可ク旨其向々ハ諭達有之様北

官房第二四二四號

海

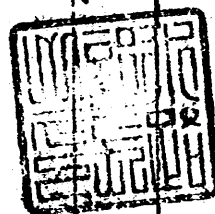
軍

海道廳長官へ御訓令相成度此段上
申矣也

明治三十九年六月廿二日

水路部長松本

和



海軍大臣齋藤實殿



水
則
量

水橋密印七所

明治四十年度以降測量計画

添付上申

明治四十年度以降測量計画、海別低
並に附回、通相定ノ施行致シ度
新ノ仰美也

明治三十九年一月廿七日

水橋知七

海軍大臣宛

市上水橋密印七所、並に添付上申、海別低並に附回、通相定ノ施行致シ度、新ノ仰美也、
明治三十九年一月廿七日、水橋知七、
海軍大臣宛

海

軍

明治四十年以降ニ於テ測量計畫區域

(久保田納)

71

11

1058

明治四十年度以降測量計画区域		傷所区域		四十年度	
樺太組	近海部	樺太組	近海部	樺太組	測量船一隻ヲ要ス
樺太組	近海部	樺太組	近海部	樺太組	測量船一隻ヲ要ス
朝鮮組	雄元部	朝鮮組	雄元部	朝鮮組	測量船一隻ヲ要ス
朝鮮組	雄元部	朝鮮組	雄元部	朝鮮組	測量船一隻ヲ要ス
遼東組	雄元部	遼東組	雄元部	遼東組	測量船一隻ヲ要ス
台湾組	雄元部	台湾組	雄元部	台湾組	測量船一隻ヲ要ス
澎湖組	雄元部	澎湖組	雄元部	澎湖組	測量船一隻ヲ要ス
澎湖組	雄元部	澎湖組	雄元部	澎湖組	測量船一隻ヲ要ス

四十五年度

樺太

二班
ツガルリンブルレ岬
ツチン子ウレ陽迄

測量船一隻ヲ要ス

樺太

二班
ツチン子ウレ陽迄
忍耐岬陽迄

右五

樺太

二班
忍耐岬陽迄
ツチン子ウレ陽迄

右五

樺太

二班
ツチン子ウレ陽迄
ツチン子ウレ陽迄

右五

樺太

二班
ツチン子ウレ陽迄
ツチン子ウレ陽迄

右五

四十六年度

改測

石ノ巻
山田岬外(電ヲ通ス) 二班
測量船一隻ヲ要ス

改測

山田岬外(電ヲ通ス) 二班
測量船一隻ヲ要ス

改測

山田岬外(電ヲ通ス) 二班
測量船一隻ヲ要ス

四十七年度

改測

陸奥列島及
此等島嶼(即東屋崎、日御連)ニ班測量既行す要
此等島嶼(即東屋崎、日御連)ニ班測量既行す要

改測

豊後水道
此等島嶼(即東屋崎、日御連)ニ班測量既行す要

明治四十八年度以降ハニニ班ヲ以テ必要ノ改

測及補測ニ從事セシムルコト

明治四十九年度以後ニテ小区域ノ必要ナル測量

改測及補測等ハ其地方ニ依リ必要ナル以テ行ハ

ル事ハ毫末ナシ地方(樺太等)如キ地方ニ於テ難キ事ナ

キ事ナリ測量欠リ用ニ及ぶ事多ク以テセサル所ナラザルハ

温暖ナル地方(台湾南部)如キ地方ニ於テ難キ事ナリ

(久保田納)

出張船定、測量員ヲ若以テ用ニ臨時ニテ執行ス
ル見ゆ

千島列島ハ總噸數ニテ噸位、船舶ニシテ炭水、
新嘉支カニテ用ニシテ測量船
ヲ見ゆ

南支那島ハ右同形、船舶、以テ用ニシテ四年間ニ
シテ測量船ヲ見ゆ

沖繩群島ノ東方ニ有ハシ、大東島々
嶺ハ肥前島沖界カ群島ハ右同形、船舶ヲ
使用ニシテ四年間ニシテ測量船ヲ見ゆ

八重山列島、此方約百才埋アル島嶼其郡
國島ハ右同形、船舶ヲ以テ伯一十年ニシテ測量
佐ヲノ見込ナリ

日本海其他本邦、接近シタル海洋、鍾測ハ右各
離島、測量佐佐收寄毎ノ見込ナリ

前記離島、測量ハ明治四十七年より寄毎ニ
測量船一隻ヲ以テシテハ明治六十二年迄ノスル
ヲ莫ク使用スレハ明治五十四年、測量佐佐見
込ナルヲ以テ一隻ノ船舶ヲ右佐路ニ使用シテ廢
就テハ此際補薩船ノ内ヨリ相當ナルモノニ隻ヲ選
ヒ之ヲ鑲装シ以テ測量艦ニ充テラレ廢而シテ明治

(久保田納)

四十七年以前ト尾ノ軍艦ヲ南ノ磐城ノ如キハ船
ヲ以テシテハ果早瀬源ニ沖合ノ測量ニハ少シク
不適者ノ感ニ有之ハ大艦ヲ以テ交換使用スル
コトニ致シタシ

豊後東岸ノ測量ハ明治四十四年及四十五年
度、三々年ヲ以テ施行豫定ノ処該沿岸ハ界
南、以商港、秀枯案溪及花蓮港等ヲ除ク
外海岸概テ不良ニシテ看船所オキノミナラス花
蓮港以北ノ如キハ未開ノ蕃地ナル等語以テ通
常ノ方法ヲ以テ測量シ難キモノナリ若シ實地測
量ノ結果普通ノ方法ニ拠リ難キ場所アリタルト

キハ止カラ得ス航走測量ノ法ヲ以テスリ施シ
而シテ四十四十一年度ノ兩年ニ於テ界測ヲ
交ス其年部ヲ終ラカルリ得ヘシ吾レ然ルトキハ四十
一年度ニ於テハ該地際迄ノ測量略ヲ以テ
小笠原嶋ノ一部ヲ測量スルコトニ決更セシト
ス

軍務局員



榮

別冊四十年度以降測量計画、件上
申書並附圖一先、用増子及び返
送片、並、測量、中附圖、尚
入用、自、年、海、図、教、養、上、以、福、興
の、正、以、依、中、也

四十年二月二十八日

岡田白負

海軍省海軍測量科長

目録

別冊の附屬之一、本依新ニ依リ、中送
所及、美、柔、古、用、海、兵、事、所、一、部
本、部、多、一、也

四十年二月廿七

丹羽水野少将室拜々

留野軍務局々員人校

軍務局員



海軍

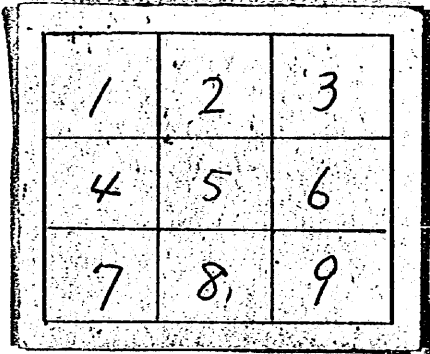
之刻市ノ城ノ附屬を葉巻
字上及市回付也

四十年三月一

丹羽水戸所主様

長野中佐殿

分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

1078
1079
1080



部 總 本 日

· 附

岸海清露近附其及鮮朝

THE ALL PARTS
OF.

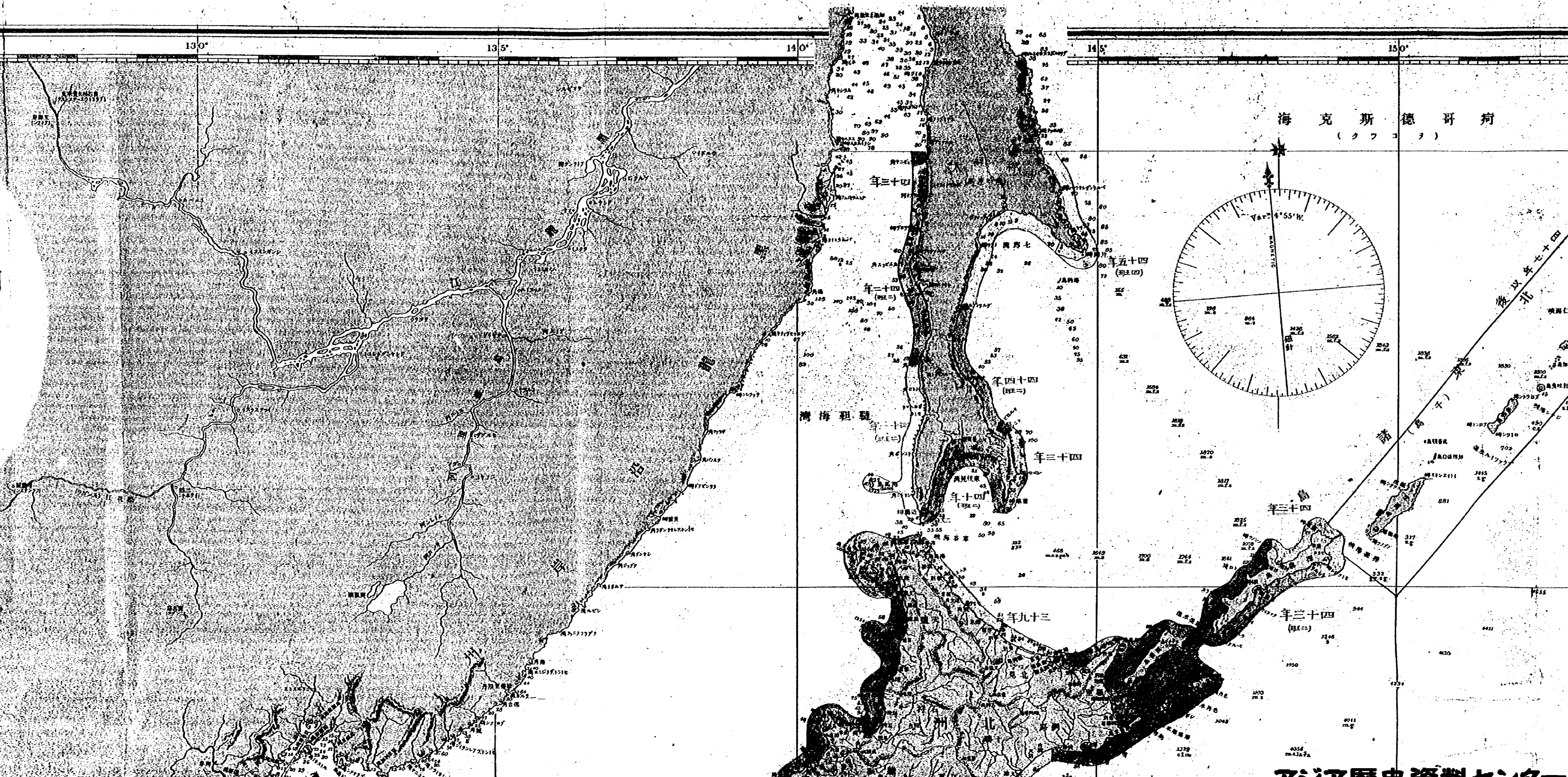
J A P A N

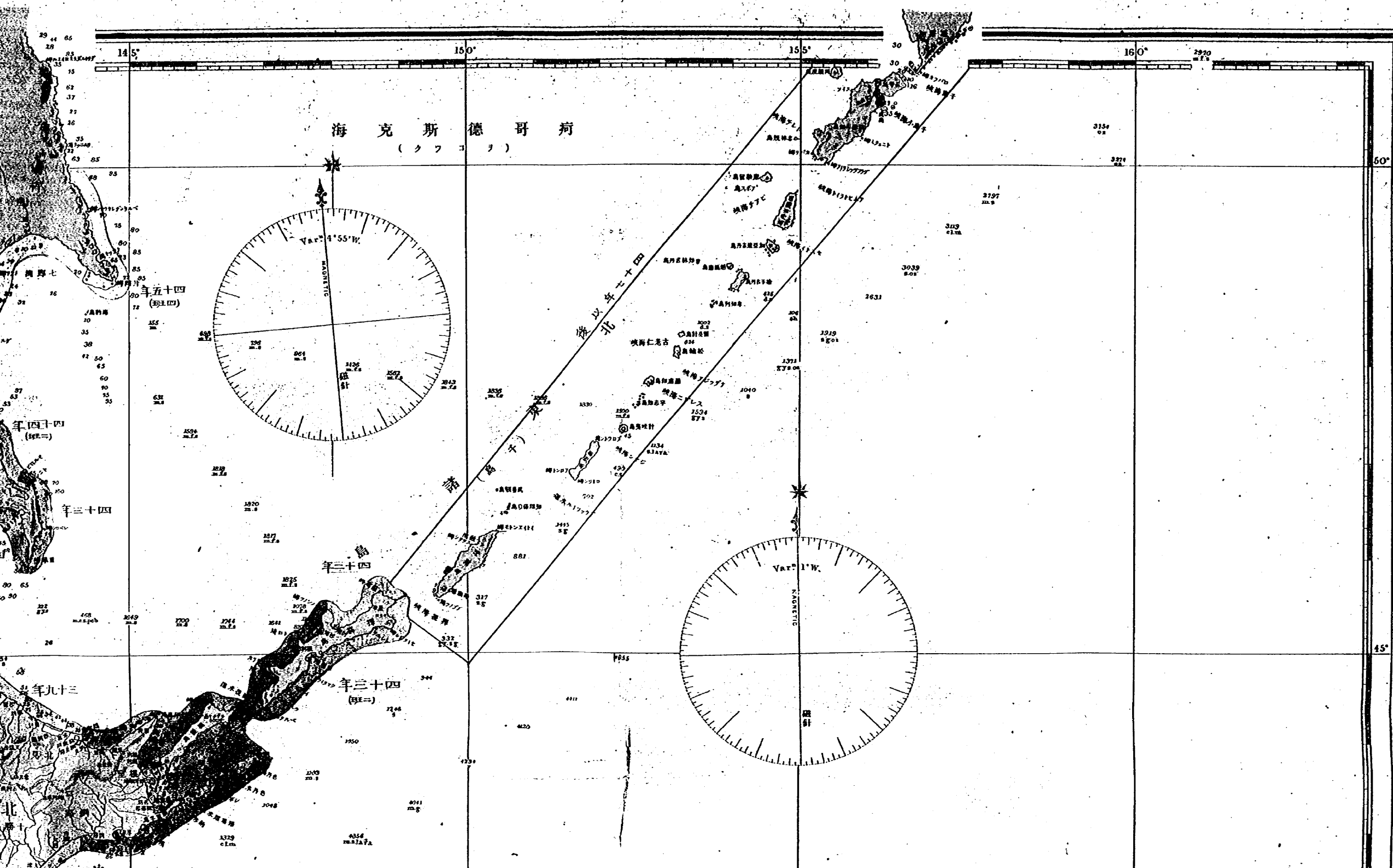
WITH

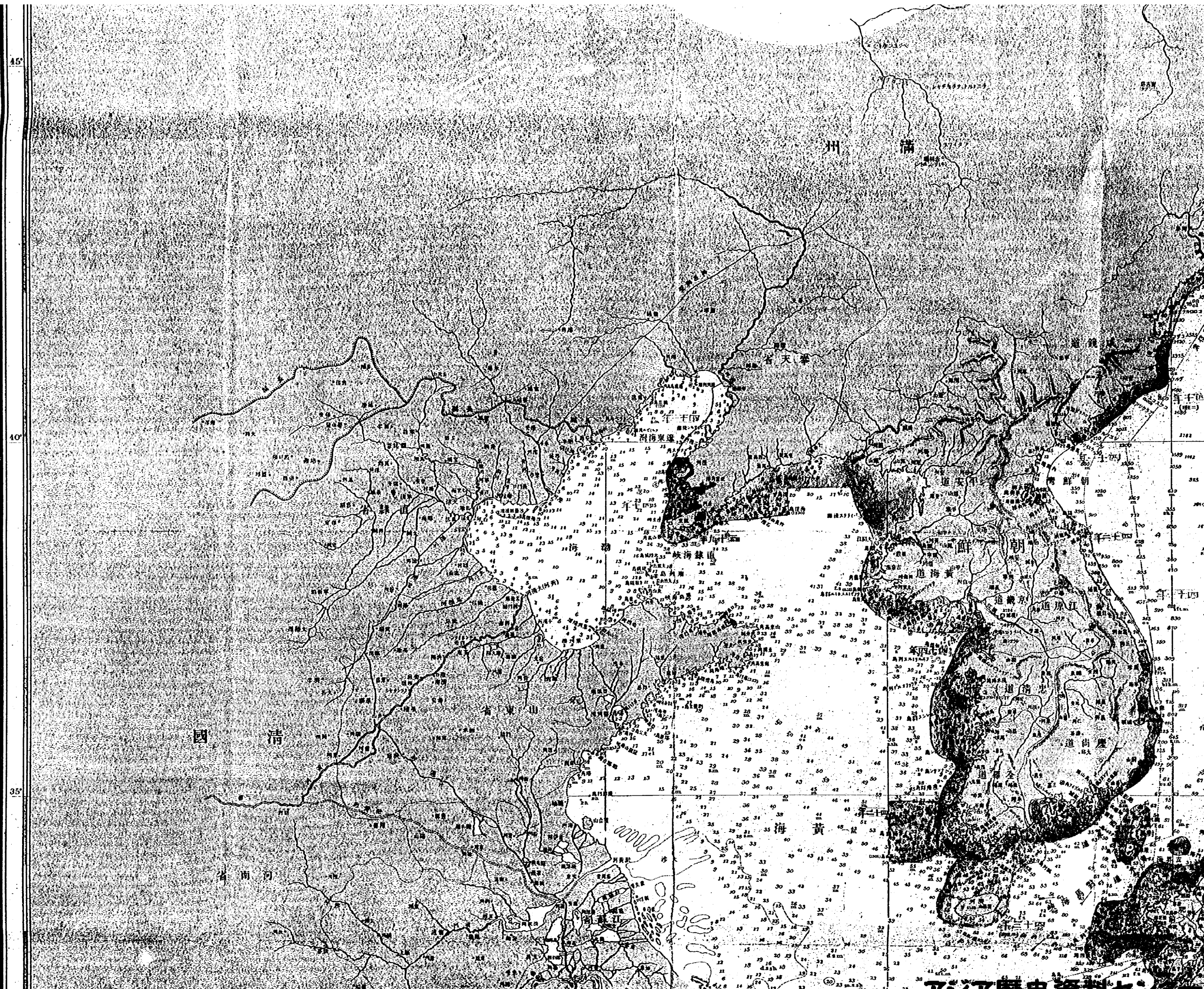
KOREA

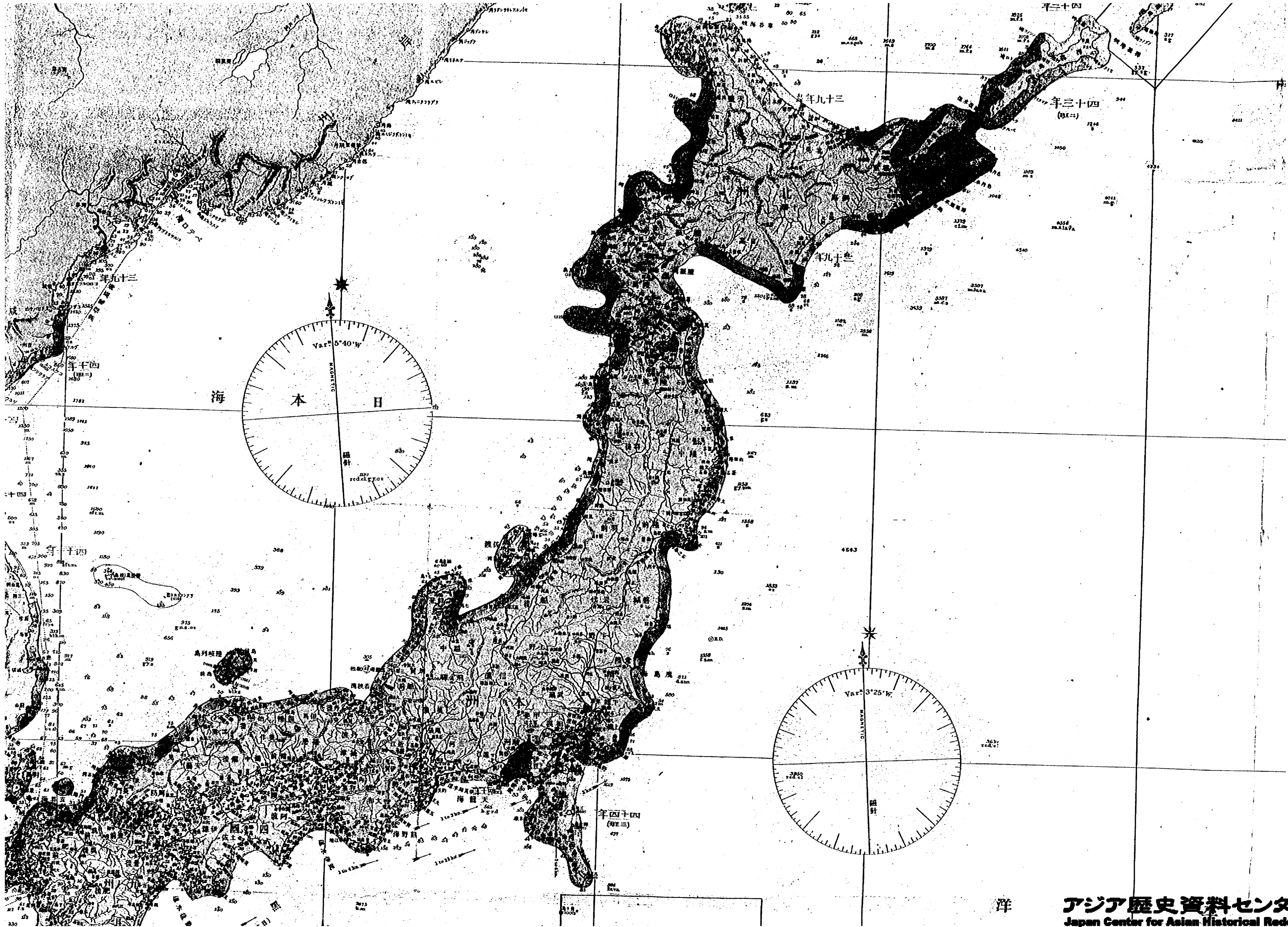
AND THE ADJACENT COASTS OF
RUSSIA AND CHINA

州 滿

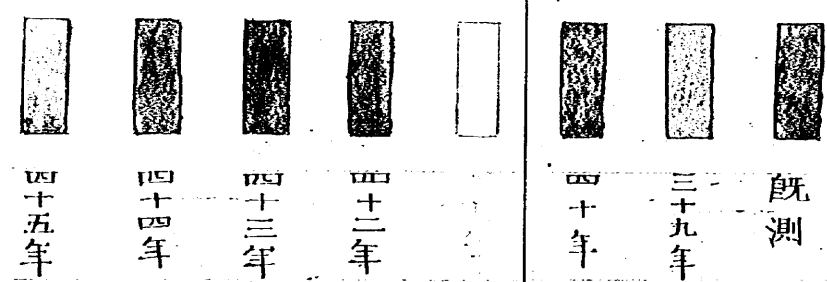
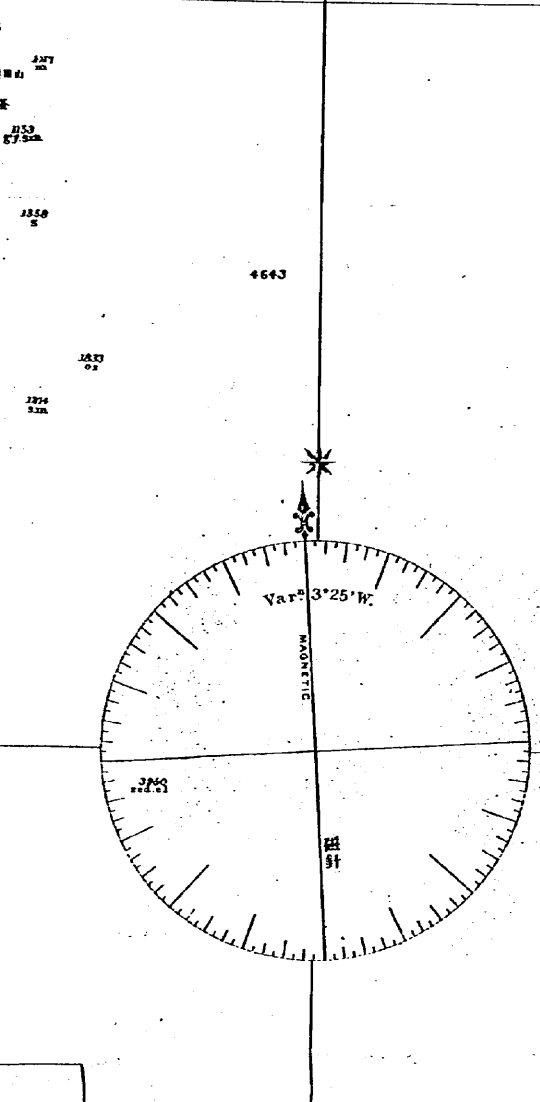
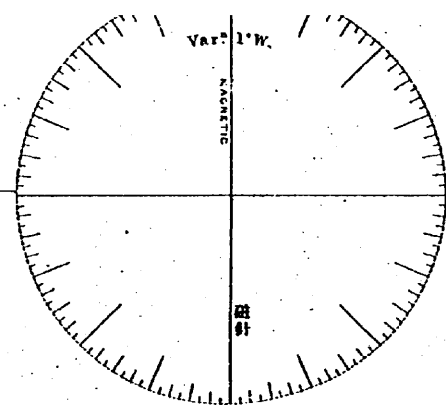
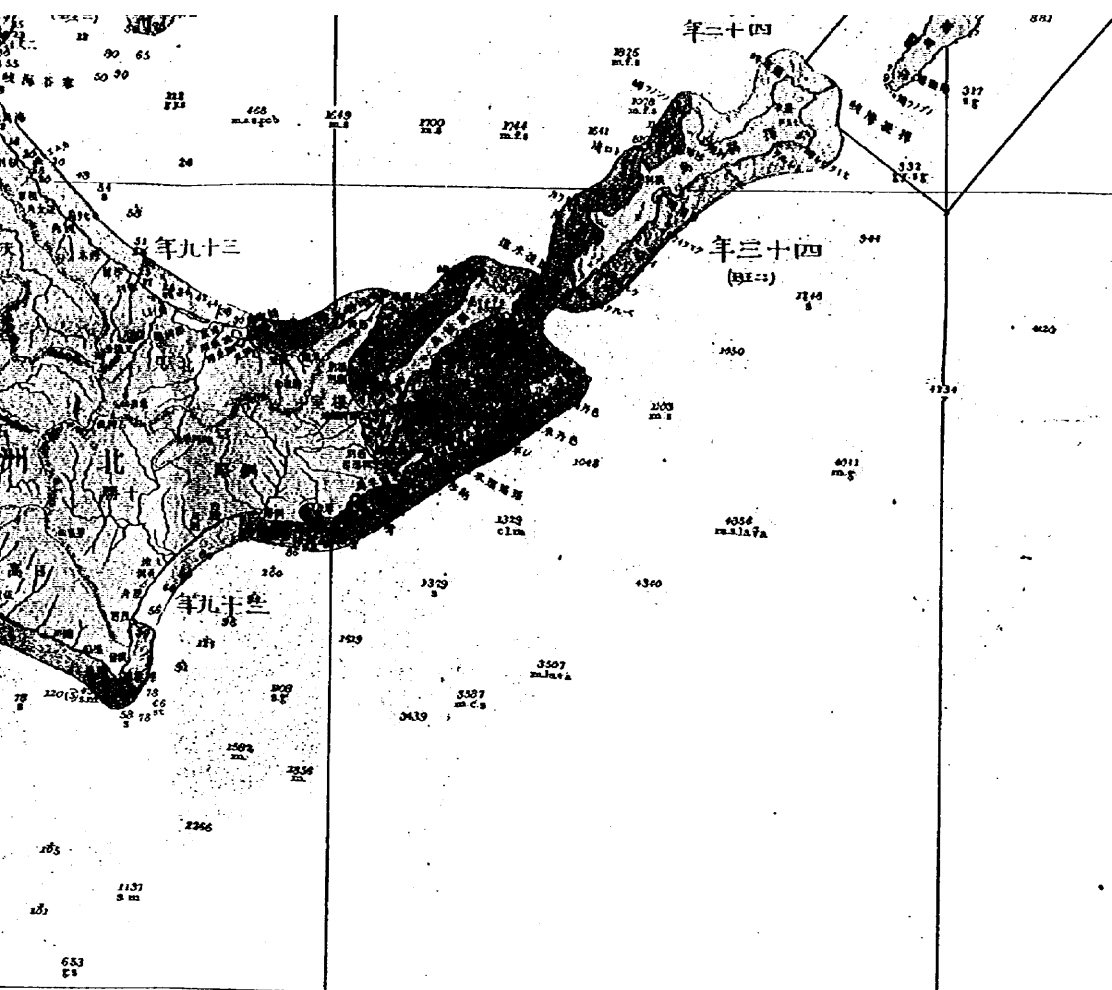








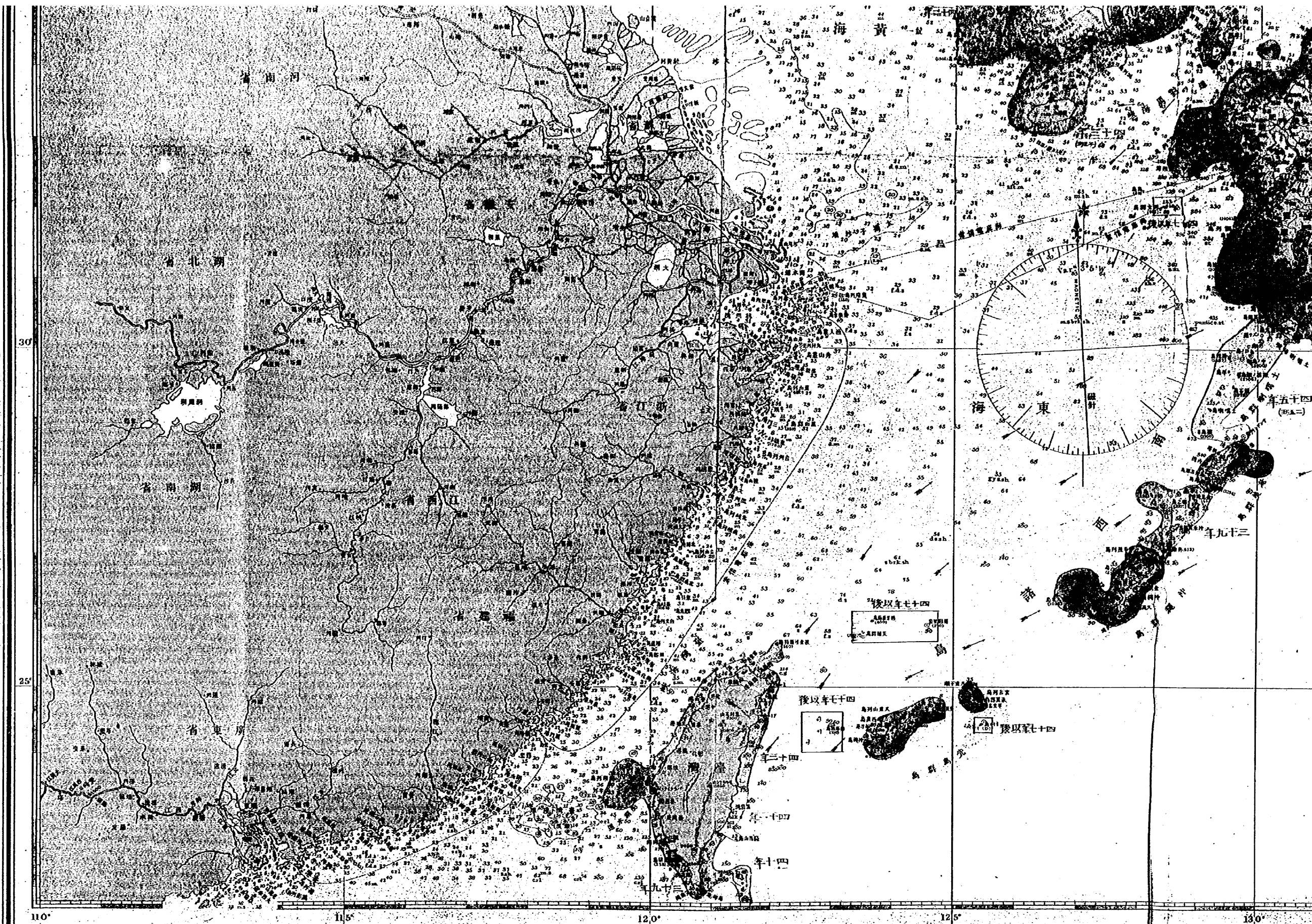
洋



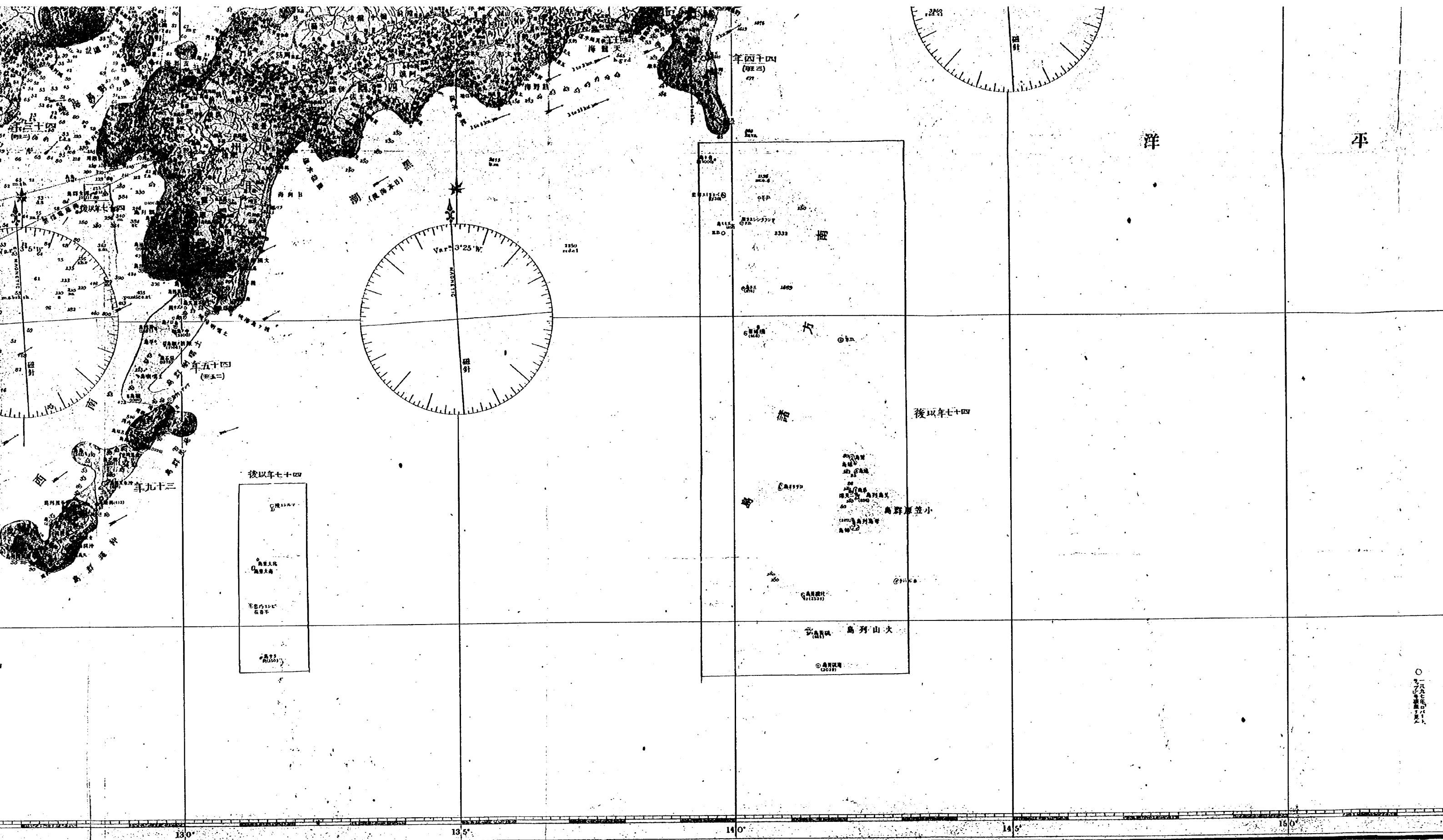
洋 平 太 北

明治二十四年八月十日水路部二於テ刊行ス 水路部長海軍大佐肝付兼行

第一號



Tokyo.



Tokyo. Published at the Hydrographic office, 10th August 24th Year of Meiji (1891) under the Superintendence of Capt^d K. Kimotaki, I.J.N. Hydrographer.

三十九年一月廿日
水機家少才七号
附(2)

1081

水測局

水測局員



海

軍

奉

御送付、明治四十年度測量地所始業係
業日、日豫定表ニ就テ係ト調査ヲ進テ
延由意見ノ通ニテ支テ見ルニ有久秀名御
了知有成在該段係条申進者也
明治三十九年一月十七日

伊藤軍務局長

水測局員

軍務局長

(複製)

1081 1082

軍本部

源
氏
印

軍
第
一
〇
號

并

伊藤軍務局々員
殺

丹羽清重待長

先刻此後、書面為我ノ通リ及
市込付美也
一月十七日

海
軍

明治四十年度測量地及始業終業

月日豫定

一 樺太班

近藤岬ヨリ
コルサコラ燈台迄

十月一日ヨリ
十月十五日マデ

一 右 全

重蔵岬ヨリ
コルサコラ燈台マデ

右 全

東伏見湾沖合鍾測ハ單艦一隻ヲ要ス

一 朝鮮班

雄元端ヨリ
城津浦マデ

四月十日ヨリ
十月十五日マデ

(分圖)

梨津湾、良化湾、泗津(洋島ヲ含ム)城津浦

(註)

城津浦外ハ艦長主任官見込ヲ以テ取捨スルコト

一 朝鮮班

城津浦ヨリ
松島岬マデ

四月十日ヨリ
十月十五日マデ

(分圖)

梨湖、錨地、利源泊地、渡湖湾、新昌湾

(註)右分圖ハ艦長主任官ノ見込ヲ以テ取捨スルコト

右二班ニ對シ軍艦二隻又ヲ要ス

一、遼東班

コリンシン岬ヨリ
復州角マデ

四月十日ヨリ
十五日マデ

右軍艦一隻又ヲ要ス

一、台灣班

鶯鶯鼻ヨリ
卑南溪マデ

(紅頭嶼及以南)
ノ岩礁測定

九月二十三日ヨリ
三月二十日マデ

但シ卑南溪迄測定シ能ハサル時ハ加里坂迄ニ縮小シテ差支
(註)紅頭嶼ハ艦長主任官ノ見込ヲ以テ必要場所ノ分圖ヲ調製スベシ

右軍艦一隻又ヲ要ス

一、遠州灘若クハ宇和島湾

(台灣班員
以テナス)

四月十旬ヨリ
七月中旬マデ

右軍艦一隻又ヲ要ス

(宇和島湾ヲ測量ス
軍艦ヲ要セス)

一、下ノ関海峡

(東口ノ西口)ノ鍾測

武蔵野の山月
 大和生る九月の月未だ残す
 天竺の六の月
 古事記の八月

測量船ノ運搬

- (一) 三十九年三月横須賀ニ新造ノ測量船一隻ヲ五月上旬根室ニ回航ノコト(此ノ分ノ枝幸ニ送ルベキモ)
- (二) 三十九年五月上旬根室ヨリ測量船八隻ヲ紋別及枝幸ニ運搬ノコト(紋別、本船ニ枝幸、官給六)
- (三) 三十九年四月中旬佐世保ヨリ測量船八隻ヲ新造ノ國羅津浦ニ運搬ノコト
- (四) 三十九年六七ノ西月間ニ基隆ヨリ測量船八隻ヲ新造ノ國羅津浦ニ運搬ノコト

隻ヲ安平ニ運搬ノコト

(五) 測量船ハ所用測量船四隻(私船)ヲ佐渡島ニ
運搬ス

三十九年測量機ノ配置

松江丸

九月下旬より十月下旬迄ノ測量機ノ配置

九月中旬釧路工面航晴天約三十日間沖合

鐘測ニ從事スルコト

北見班員ノ内ヨリ枝手一技生一ヲ八月下旬釧路

工轉セシメ設標及松江丸ニ乗組沖合ノ鐘測

ニ從事セシム設標ニ日鐘測晴天二十日ノ

豫定

武蔵

八月下旬より九月下旬迄ノ測量機ノ配置

八月下旬北見國枝幸ニ面航ニ同國沿岸

沖合ノ鍾沙ニ從事スルコト（晴天約三十日間）

大和

四月下旬南西諸島ノ徳ノ島ニ回航。当部測量員ノ設標及離島ノ測量等ヲ援助シ六七ノ西月天候静穏ノ日ヲ利用シ基隆ニ顔ケル測量艇ハ隻ヲ安平ニ運搬シ該地ノ官憲ニ保管及修理等ヲ依頼シ八月上旬呉軍港ニ帰港。更ニ九月中旬呉ヨリ当部ノ測量員及艀頭船夫并ニ測量材料等ヲ搭載シ台湾ノ測量ニ従事スルコト

曹甸城

四月中旬佐世保ニ測量員、私頭裕大、測量
材料等ヲ搭載シ朝鮮國羅津浦ニ回
航スヘシ（今時ニ測量船ハ隻ヲ運搬スコト）

天竜

七八ノ西月石ニ晴天約三十日間徳ノ島附近ノ
沖合鑑測ニ從事スルコト

砲艦一

七月中旬ヨリ遼東半島ノ沖合鑑測ニ従
事スルコト

海
軍

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
<http://www.jacar.go.jp/>

軍務局



軍部

水第三 四號

局員

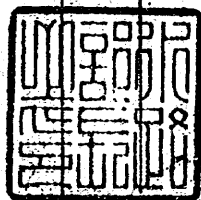
測量計畫儀進達書



明治三十九年度中各方面測量計畫別紙ノ通相定ノ矣ニ付進達仕候也

明治三十九年一月十五日

水路部長松本 和



海軍大臣齋藤 實殿

軍務局 局長 齋藤 實

海 軍

明治三十九年度測量計畫取調書

一北海道北見國常呂ヨリ雄武ニ至ル沿岸

但シ四月下旬着手十月下旬竣功豫定

一同道同國雄武ヨリ海島島ニ至ル沿岸

但シ前同断

右二方面共距岸五里以外沖合ノ鍾測ハ測量

艦ヲ以テ施行シ測量中ハ其場所ニ應シ西

方面ノ内ヨリ測量員一名ヲ乗艦セシムル筈ニ

シテ八月上旬ヨリ晴天約三十日間ノ見込

一北海道十勝國茂岡ヨリ釧路國大樂毛ニ

至ル間ノ鍾測

但シ八月下旬ニ於テ前記ノ第一方面ヨリ測量

二名ヲ分離シ之ニ着手十月下旬竣功豫定

右鍾測ハ測量艦ヲ以テ自身若ク其保護ノ
下ニ小舟ヲ用ヒ之ヲ施行スル筈ニシテ九月中旬
ヨリ晴天約四十日間見込

一南西諸島徳ノ島ヨリ輿論島ニ至ル海區

但シ総圖ノ外山村和泊及立長ノ分圖ヲ製シ
四月中旬着手十月下旬竣功ノ豫定

右測量中四月下旬ヨリ約一ヶ月半測量艦ヲ以テ
設標及測角ノ事業ヲ援助シ又七月下旬ヨリ
晴天約一ヶ月間測量艦ヲ以テ沖合ノ鍾測ヲ施
行スル見込

一台灣南西岸安平ヨリ鶯鷺鑾鼻ニ至ル間
ノ未測沿岸

但シ総圖ノ外車城灣及大板橋港ノ分圖

ヲ製表シ九月下旬着手翌年三月中旬竣功
ノ豫定(大凡)

一韓國東岸北部豆滿江ヨリ雄元端ニ至ル沿岸
但シ総圖ノ外造山湾及其他二三分圖ヲ
製シ四月中旬着手十月下旬竣功ノ豫定之

右二方面共測量艦ヲ以テ施行シ本部員ヲ
各測量艦ニ配乗シ該艦員ニ其補助ヲ爲サ
シムル見込

一遼東半島ロビンソン角ヨリコリン岬ニ至ル沿岸
但シ総圖ノ外旅順港及大崗口(オデシコーフ)
大連湾口補測ノ分圖ヲ製表シ四月中旬着手
十月中旬竣功ノ豫定

右距岸五哩以外沖合ノ錐測ハ測量艦若クハ旅

順口鎮守府所管ノ砲艦ヲ以テ八月上旬ヨリ
晴天約三十日間ニ施行ノ見込

一能登國七尾北湾ノ改測

但シ台湾へ出張スヘキ本部員ヲ以テ施行
スル筈ニシテ四月中旬着手六月下旬竣功豫定

一旅順口經緯度測量

但シ遼東半島測量方面へ出張ノ科員
一名之レヲ擔當シ時機ヲ見計ヒ七日間ニ
施行ノ見込

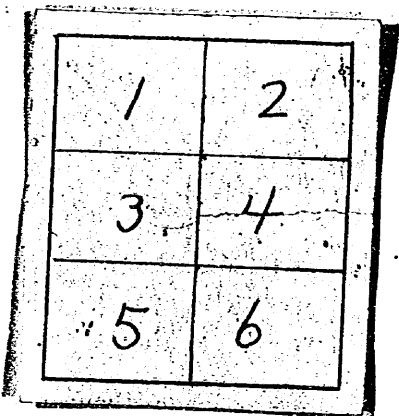
日本總領事館
外務省

自校

不同者先任的員

1096

分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

1097
1098

1099
1100

1101
1102



部 總 本 日

附

岸 海 清 露 近 附 其 及 鮮 朝

THE ALL PARTS
OF

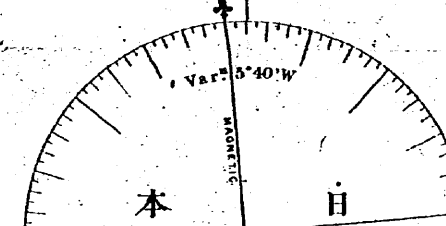
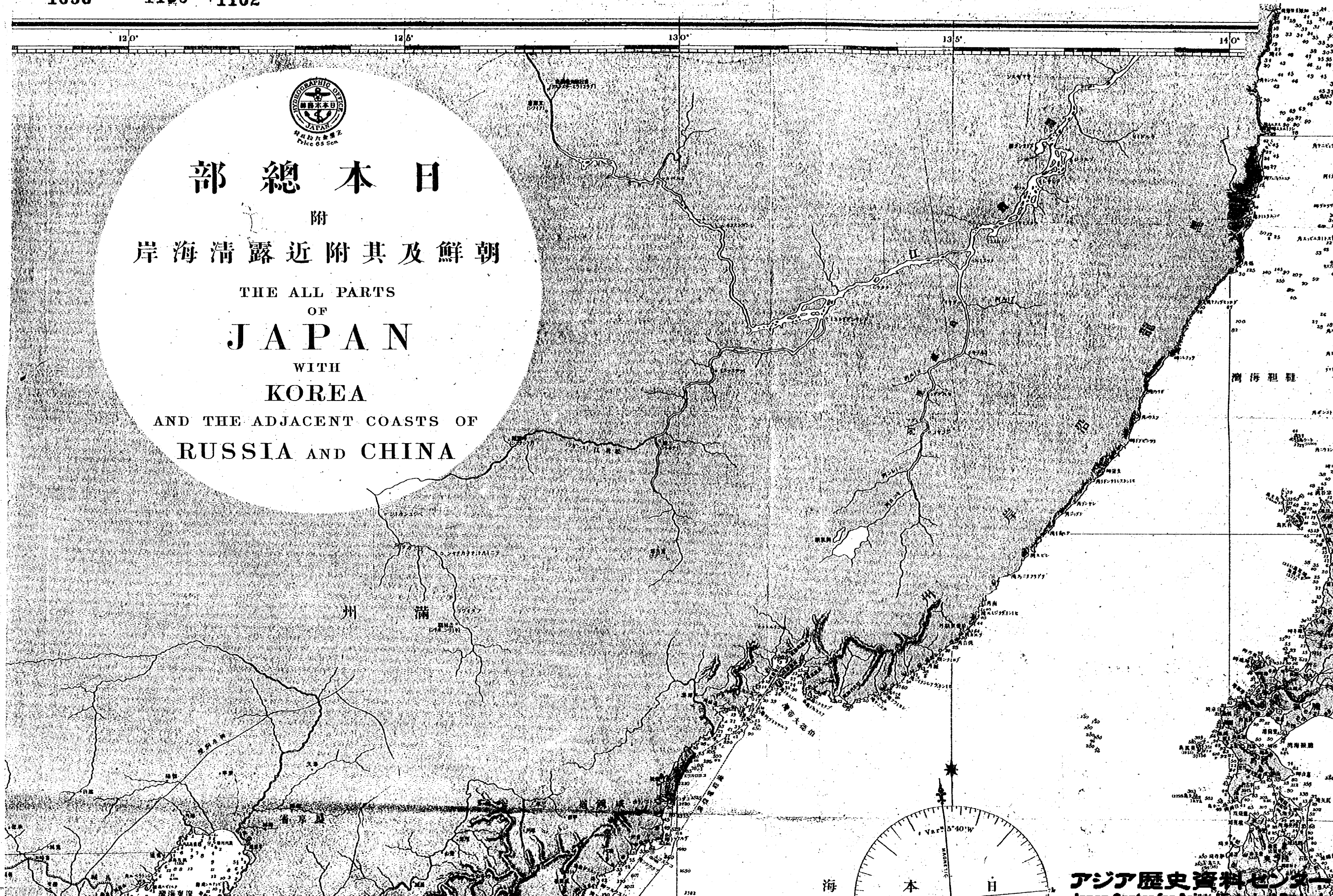
JAPAN

WITH

KOREA

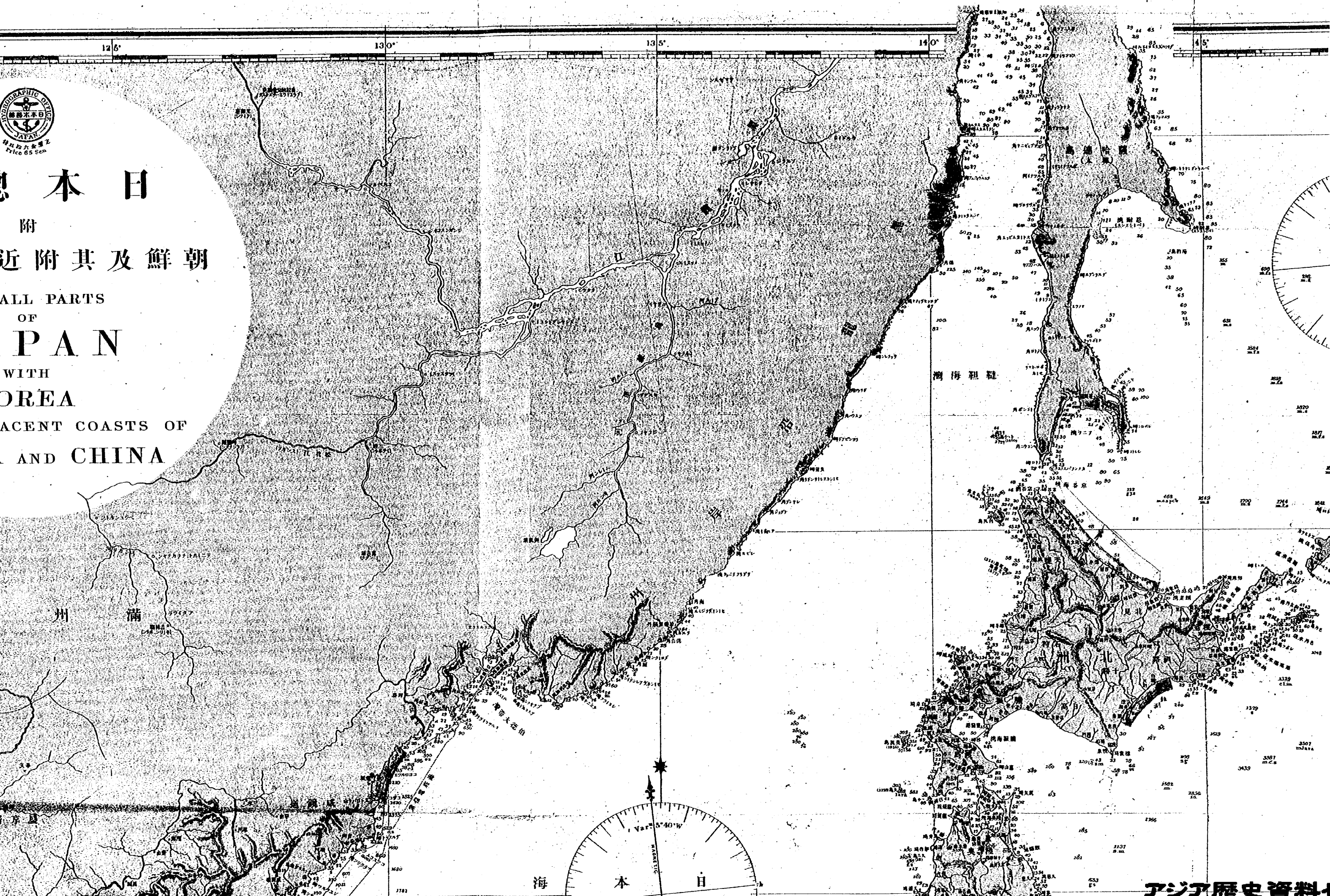
AND THE ADJACENT COASTS OF

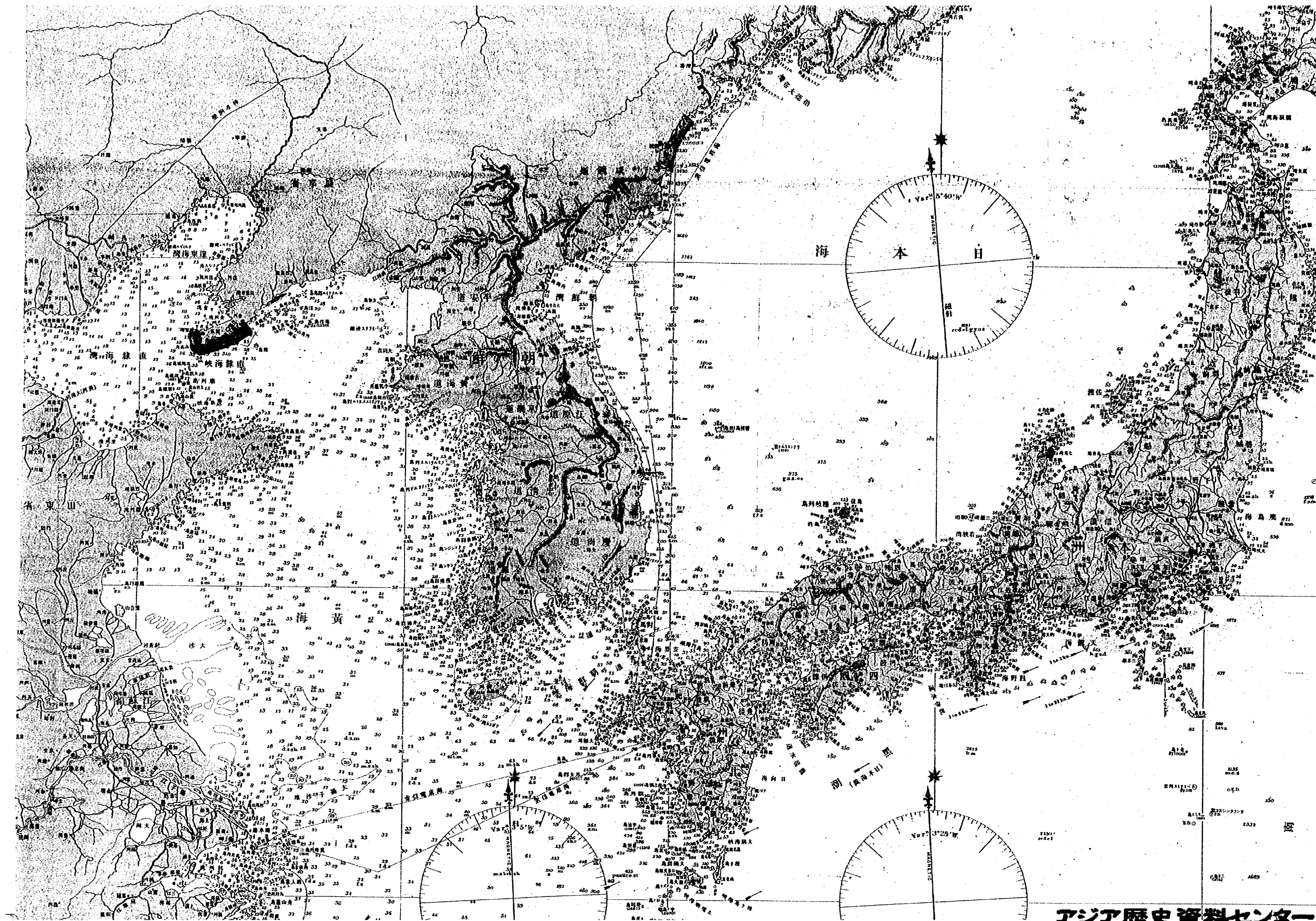
RUSSIA AND CHINA

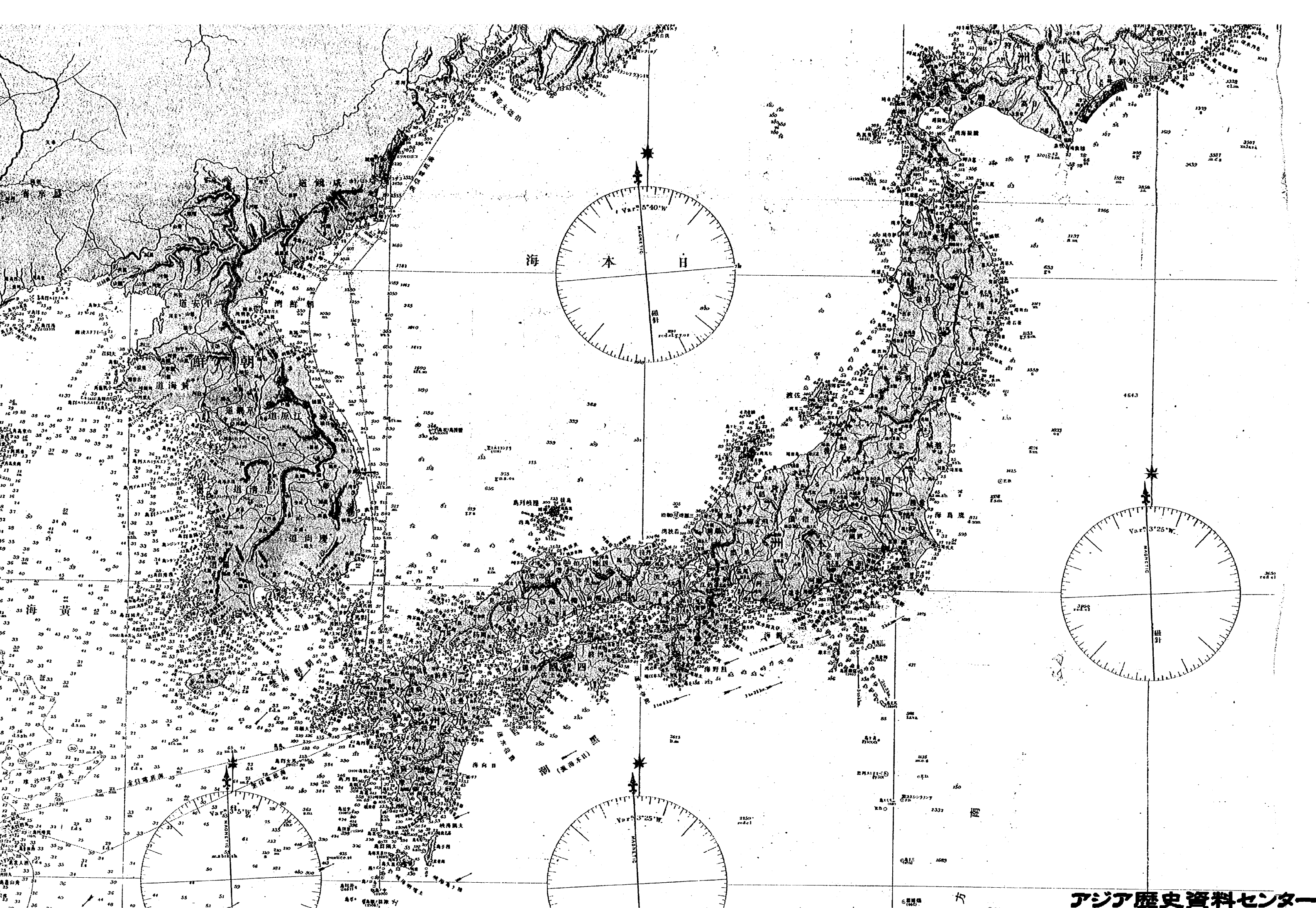


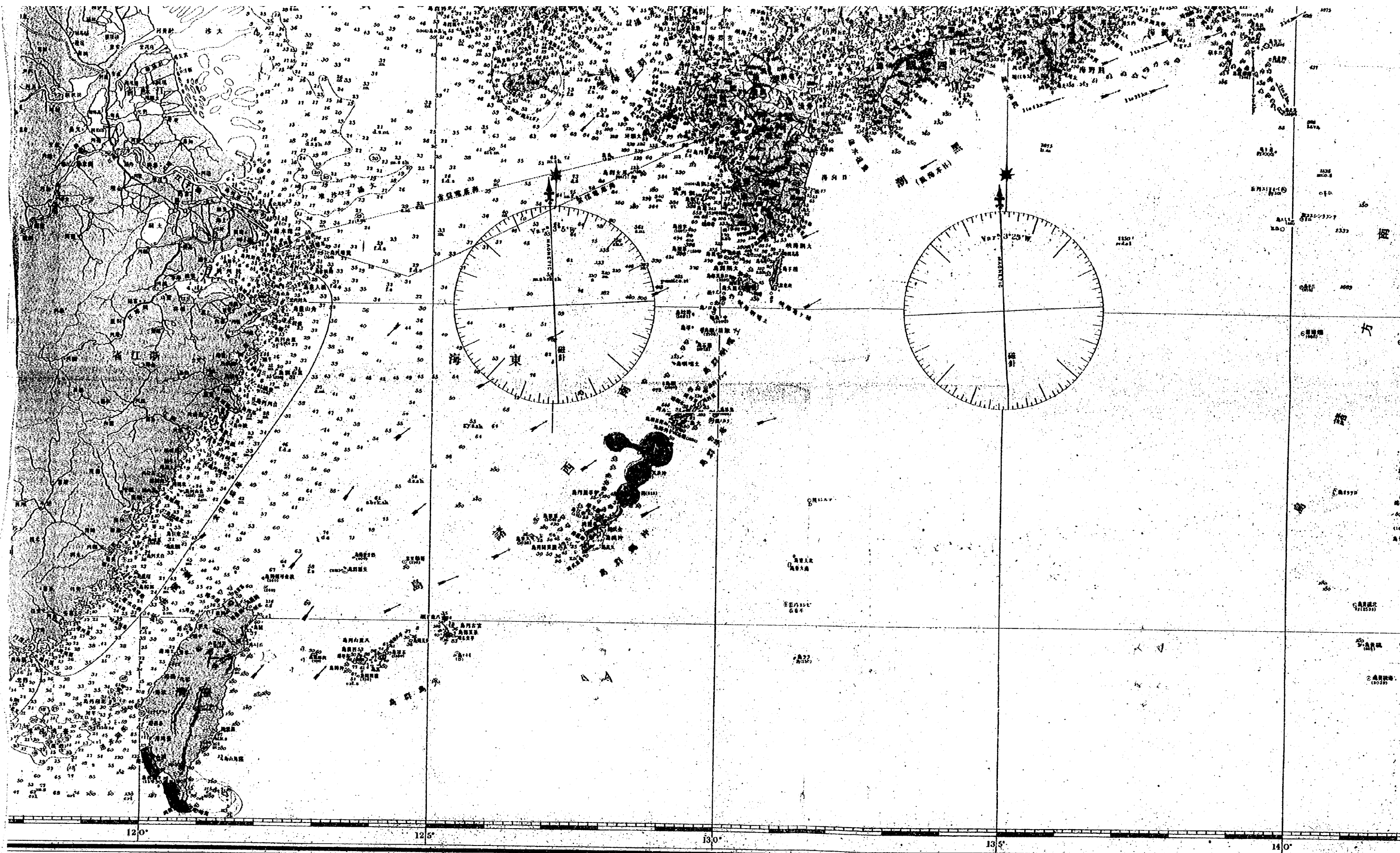


日本
附
近附其及鮮朝
ALL PARTS
OF
JAPAN
WITH
KOREA
ADJACENT COASTS OF
RUSSIA AND CHINA

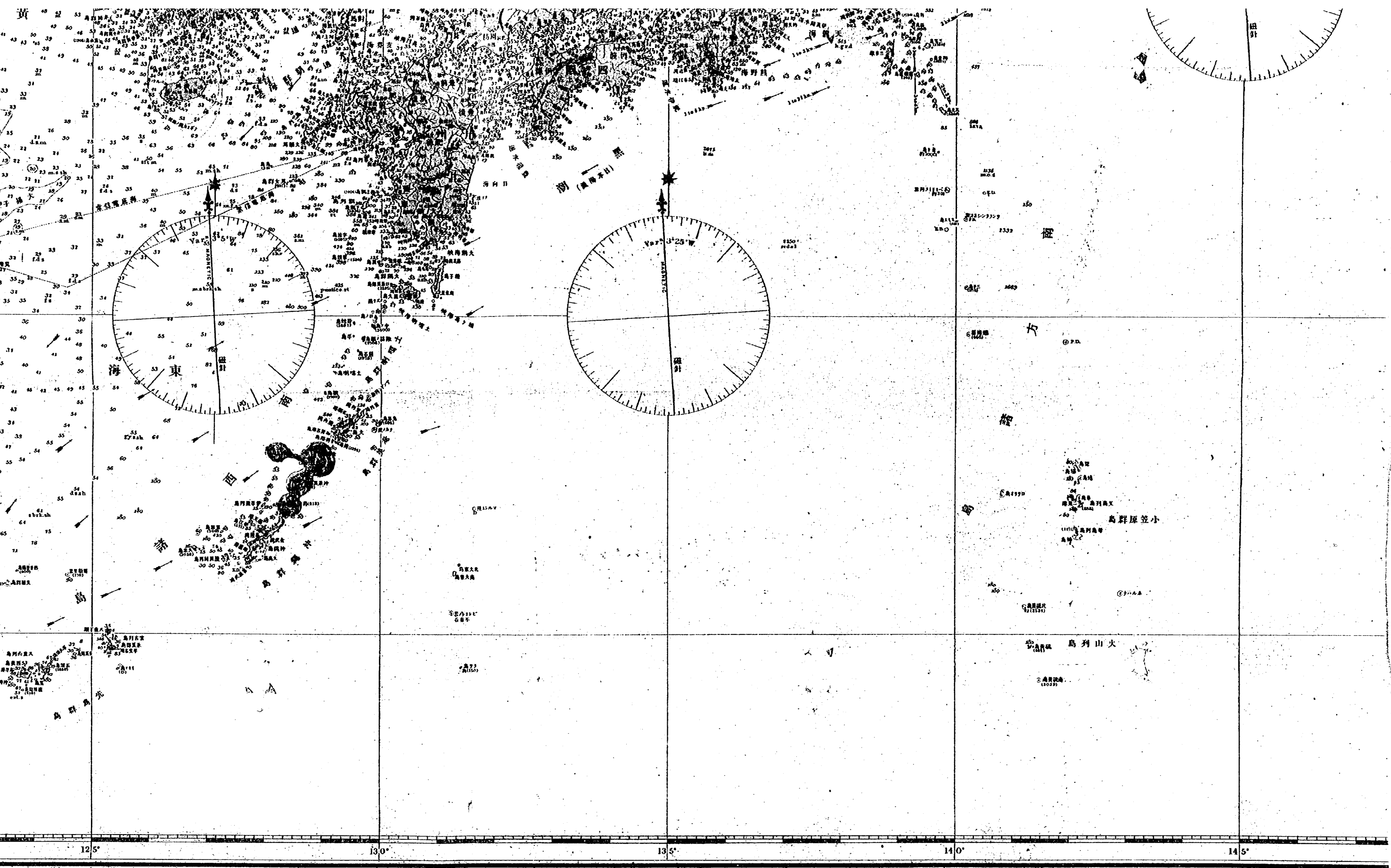








Tokyo. Published at the Hydrographic office, 10th August 24th Year of Meiji, (1891) under the Superintendence of Captⁿ K. Kimotski, I.J.N.H.



Tokyo. Published at the Hydrographic office, 10th August 24th Year of Meiji, (1891) under the Superintendence of Capt. K. Kimotski, I.J.N. Hydrographer.

軍務局

軍本部

第三卷

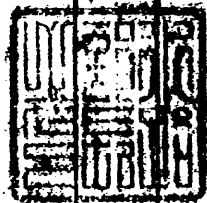
九七〇號

測量施行ノ儀ニ付布告

明治九年年度測量ノ儀ハ本年一月廿五日
附水第三四号ヲ以テ計畫書進達位置矣
通り進行矣處台灣ヲ除ク外各地共好
都合ニ相運ト矣ニ付職員及經費ノ都合
ヲ圖リ先ツ当初ノ豫算ニ組入アル宇和島灣
ノ測量ニ着手シ尙ホ横須賀及吳西軍港
ノ改測ヲ施行致スヘク矣若シ是等ノ測量ニ
シテ好都合ニ運フヘキ見込相立テ矣上ハ職員
及經費ノ許ス限リ佐世保軍港ノ改測ニモ着
手致スヘキ見込ニ矣間此段及御届矣也

明治三十九年十一月廿六日

水路部長松本和



海軍大臣齋藤實殿